

# オアシスの森くらぶ

## ニュースレター16号 2002.10.12発行

発行 オアシスの森くらぶ  
編集委員会  
 発行人 永田 修二  
 編集人 近藤 眞史  
 編集長 五十川 幸夫

### 6月定例活動「野鳥のための水辺創出」

近藤 記巴子

水系に乏しい相生山緑地オアシスの森に、水辺づくりを計画。多様性に富む豊かな森にすることがねらいである。

当日は何箇所かピックアップしたうちのひとつ、見晴らしの丘から稲田口へと下る散策路から数メートル離れた斜面とした。いのちの谷へと続く斜面は「日本野鳥の会」に長年所属する古沢氏にも相談し決定した場である。

さて当日、スコップ、クワ、ツルハシ、防水シートなどを手に現地に向かう。予想図を確認し作業開始。地面を掘ると土と石とどちらが多いのかと思うほどだった。森山さんの長年鍛えた腕でスペースができる。防水シートをカットする。シートを重ねテープで押さえる。昨年のトンボ池づくりで要領を習得した野浪さん、村田さんが手際よく作業を進める。その間に女性たちは大きめの石を収集する。シート上に石・土をのせバケツリレーで水をはる。朽木などを沈め水辺に浅瀬をつくり、完成！これで暑い夏を野鳥も小動物ものりきれるぞ！

しかし7月上旬の台風の大雨に無残な状態となる。ふりかえればいくつか反省点がある。トンボ池も何度か手直ししているのだ。この水辺もやり直せばいい。近いうちにもう一度、トライ



地面を掘り始めると、すぐに石混じりの固い土の層が現れた。ツルハシでほぐしながら適度な大きさと深さまで掘り進める。

防水シートは、以前トンボ池づくりのために寄付を受けたパラシールの余りを使用。つなぎ目は水漏れしないよう、ガムテープでしっかり押さえる。



防水シートを敷いた後、周囲を石や丸太で押さえて固定。シートの浮き上がりを抑えるため、真ん中にも重りにならざるを並べる。

野鳥たち待望の水辺が完成！これからも改良を重ねて、野鳥たちの憩える水辺をつくっていくぞー！



自然らしさを回復させるため周りに土をかぶせ、あとは近くの防火水槽からバケツリレーで水を運んで注ぎ入れる。



## 8月定例活動 「森づくりマップをつくらまい！」

眞弓 浩二

蝉時雨がツクツクボウシに代わりかけた8月24日。「下草刈りにしても柴刈りにしても真夏の作業は辛い・・・」というわけで、今回はオアシスの森を歩き回り、今後の森づくりの方針を我々の手でつくり出そうという活動テーマを掲げた。

この日は新入会員や「なごや環境塾」からの活動体験者も交え、17名の参加となった。講師としてお迎えした林進氏（岐阜大学教授）とともに森をくまなく歩き、各林分で今後の植生管理方針をみんなでお話し合いながら確認していった。



林進氏を囲み森全体のイメージを確認する参加者たち。(集いの広場にて)

日だまりエリアでは、樹齢や太さがそろ

った密度の高いコナラ林と、大木や幼樹など樹齢に多様性のあるコナラ林のどちらが望ましいかの議論があり、参加者の間で意見が分かれるなど、皆それぞれの森のイメージを確認し合える良い機会となった。雑木林の森づくりにおいて正解は一つではない。その森に関わる人たちが最良と考える結論を合意形成していくことが大切である。むしろこの方法によって多様性のある里山の自然環境が維持されるのである。森づくりの方針は全員一致で決まるものではない。互いの意見に耳を傾けながら、謙虚に学び合い、「いい意味での妥協をしながら 折り合い」をつけていく。そして合意できたところから手を着けていき、また考える。急ぐ必要はない。しかし着実に進めて行くべきである。「オアシスの森」実現の原動力の一人であった林進氏から私自身が身をもって体験し、学んできたことである。森と人の共生、それは森に関わる人と人の共生から始まる。

集いの広場・花の小径・日だまりエリア・いのちの谷 森に作ったギャップのその後・

爆弾投下跡地・見晴らしの丘 散策エリア(展望台・アカマツ再生林)・ツツジの小径・コナラの谷・ヒノキの谷 相生口の竹林・シンボルツリー・イボタの丘 木洩れ日の小径・トンボ池 野辺の小径(ヤマザクラと竹林エリア)山根口の竹林と、この日我々は森の中の3kmの道のりを4時間に渡って歩き、ほぼ全域の林分について方針を話し合い、一応の合意形成を得た。この結果はいずれ「オアシスの森くらぶ 森づくりマップ」として公表したいと考えているが、今後も折に触れ話し合いを重ね、試行錯誤を繰り返しながら、より良いプランに磨き上げていきたいと考えている。



森の中(爆弾投下跡地)で位置を確認し、森づくりのイメージを共有する。

## 9月定例活動「オアシスの森のきのこ」

大館 学

彼岸花の赤い花がオアシスの森のあちこちで咲き誇り、また秋の七草萩(マルバハギ)の紅紫のかわいらしい花が静かに森への来訪者を迎えてくれる秋の一日、9月28日(土)に「オアシスの森のきのこ」の勉強会が開かれました。

講師は豊田市に住む関西菌類談話会会員で豊田植物友の会会長でもある山田弘(ひろむ)さん。きのこの道に入ってから30年というベテランで、もと教職にあったということで、生徒を前にして立て板に水の講義ぶりは「さすが」でありました。

まず、森の分解者であるきのこの説明からスタートし、きのこには大きく分けて腐生菌(木材腐朽菌、落ち葉分解菌)と菌根菌(樹木と共生)があり、20度くらいの気温と適度な湿度が必要で、その為秋には多くのきのこが発生するそうです。

日本には3000から4000種のきのこがあるそうですが、そのうち名前がついているものは1000種程度で、菌類についてはまだわかっていない事も多いということです。



講師の山田さんからきのこの説明を受ける会員たち。

今年は例年に比べて雨が非常に少なく、きのこの発生には環境がよくないと予想されていましたが、なんと当日は小雨模様となり10人程度集まった会員は雨合羽や傘を差しての活動となりました。午前中に森の中のきのこ狩りを行い午後からきのこの同定を行うこととなりました。

あわよくばきのこ汁でも作ろうと集いの広場にプロパンガスや水を用意して始まったのですが・・・。結局採取できた26種ほどのうち、食用になるものは3種ほどで、特に黄色い管孔を持ち柄が編みタイツ状になったセイタカイグチが人気でした。山田先生によれば、イグチ系のきのこはドクヤマドリ以外一般に食用になるとのことです。一方、毒キノコとしては、これぞ

まさしくきのこといった感じのコテングタケモドキやつばが淡い黄色をしたコタマゴテングタケなどがあり、テングタケ科のきのこはタマゴタケ以外は毒キノコだそうです。また、縦に裂けるきのこは食べられるとか、虫が食べれば大丈夫などの迷信は当てにならないので、必ず自分で食べられることを確認したものを以外は食用にしないのが秘訣だそうです。

(特典)当日の参加者には教材として保育社のカラーブックス「食べられるきのこ」が特価で配布され、今後の森の散策で大いに活用されること期待します。



採取したキノコたち。ただ、ほとんどが食用にならず残念・・・

## 7月定例活動「インタープリター入門」

太田 貴大

7月27日の定例会「インタープリター入門」の報告です。

まずインタープリテーションとは、自然環境の単なる情報の提供でなく直接体験や教材を通し、事物や事象の背後にある意味や関係を明らかにすることを目的とした教育活動のことです。今までの自然観察のような受身な状態とは全くちがうということが重要です。講師には、インタープリターとして活躍されている原田さんと篠田さんをむかえました。

午前中は原田さんの指導の下、オアシスの森のなかでインタープリテーションをしたい場所を探しました。トンボ池と手入れされた林が候補にあがりました。そのときに過去にくらぶが作ったトンボ池を見て回りましたが、七年も前に作ったと聞いて、

今年くらぶに入った私は、再度くらぶの歴史と行動力を感じました。



トンボ池を囲む原田さんと会者たち。

午後は、その二か所に分かれて、どのようにインタープリテーションするかを考え、篠田さんの指導の下一人づつ実際にやってみました。ただ知識を伝えるのではなく、どう伝えたらよいかを、学ぶことが出来ました。その場所の歴史や変遷といったことを含めると良いという指導をいただき、オアシスの森周辺の移り変わりマップの製作案でもでした。

オアシスの森で行ってきた様々な活動に対して、みなさんにより興味関心を持っていただけるように伝える方法を学ぶことが出来て、とても有意義な会となりました。皆さんも一度インタープリターとして、オアシスの森のお気に入りの場所を表現してみませんか？

## 雑木林楽団「竹音器's in 帯広!!

運営委員長 西村文利

雑木林楽団「竹音器's」が船出をしました。2000年の1月、竹から作った楽器ばかりの世界的に有名な楽団のコンサートを体験し、「わしらもやるまいか」と始まった、雑木林楽団「竹音器's」が、去る9月の22日、北海道の帯広で開かれた第10回全国雑木林会議で、初めての演奏を披露してきました。



帯広での演奏風景。

お世辞にも、「上手」とは言いにくい演奏だったとは思いますが、柴田先生の技術よりも、「ハート」は、何とか出来たかな、と思います。

私たち楽団の出発は、その時の楽団の代表であった、柴田旺山先生にご指導をお願い。快諾を得て、先ず、すでに実践している九州の活動の状況調べ、岡部町の活動を見学することから始めました。

以下、これまでの経過を列記してみます。  
2000.12 猪高で竹伐り。

2001.02 東郷で伐った竹の抜き・あぶり。

04 『なごやテレビ春まつり』柴田旺山先生のコンサート、ワークショップ。

06 長久手で、オープンセミナー。初めての『マリンバ』完成。

07 雑木林楽団「竹音器's」結成

総会。

...以後毎月第三日曜日、定例活動。マリンバ作りに励む。

05 柴田先生のご指導のもと、演奏練習に入る。...以後隔週、全体練習。

09 帯広で、初めての演奏。『ふるさと』『浜辺の唄』『土を向いて歩こう』の3曲。

この後、10月には、なごや西の森、足助で演奏の予定です。

『竹を伐り、その竹で楽器を作り、その楽器で演奏する。』

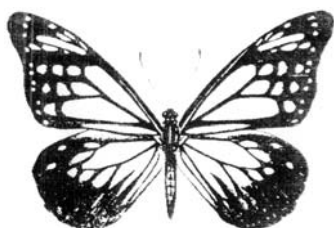
この三つの分野での達人になることを目標に、今後も活動していきます。

竹音器'sは、10月のどんぐり祭りでも演奏予定です。お楽しみに!!

## 森の住人たち ~アサギマダラ~ アサギマダラ マダラチョウ科

開長 10cm

分布 日本全土(北海道ではまれ)  
食草 キジョラン、カモメツル、イケマなど



秋、アサギマダラが相生山緑地にやって来る。水色とチョコレート色のシックな色合いのチョウが、ふわふわ舞うように森の木立の合間や草地を飛ぶ。

アサギマダラと初めて出会ったのは10年前。豊橋と伊良湖岬の中間にある蔵王山へ知人の運転する車で登ったときのことである。ゆるやかな坂を登ると、目の前に無数のチョウの群れ。独特の飛び方と水色の羽に「アサギマダラ!」と叫んでいた。実物を見るのは始めてだったが、すぐ記憶のなかの図鑑の写真と一致し理解する。何十頭ものチョウを見ながら知人たちと「すごい!」「壮観!」の連呼。その後、アサギマダラの渡りのルートで

ある伊良湖岬・南知多とそれぞれ2度訪れているが、あの日のような大群には出会っていない。

全国各地でアサギマダラのマーキング調査が行われている。移動のルートや実態の解明をするためである。南知多で知人がマーキングしたアサギマダラが鹿児島県喜界島で捕獲された。1000kmにおよぶ渡りである。小さな命のどこにそのエネルギーが秘められているのか。移動時どのように方角を知り、どのように命をつないで長旅をするのか、なぜであるという。神秘とロマンのアサギマダラである。

(文責 近藤 記巳子)



とって暑暑い日が続いた夏もやっと終わり、毎年恒例の ”どんぐり祭り” の季節がやってきました。

今回は、元祖柴刈り大会など例年の催しに加え、”木の实アートオブジェづくり”や、ツリーハガーズ・インターナショナル指導による ”木登り体験会 ” など、新たな企画も数多く予定しています。さらに、森のコンサートでは、竹音器'sのメンバーが帯広で披露した曲を演奏します。(もしかしたら、帯広の森に行った気分になれるかも?)

とにかく、ご家族全員で楽しめる企画が盛りだくさんありますので、秋のさわやかな一日を”相生山緑地オアシスの森で過ごしませんか?!” 日頃、活動になかなか参加できないという会員の皆さんも、ぜひご参加下さい。

- 竹のおもちゃづくり
  - 森の観察会
  - 木の実アートオブジェづくり
  - 森のコンサート
  - 八事の蝶々ワークショップ
  - 元祖柴刈り大会
  - ドングリみこし
  - 木登り体験会
  - ドングリの背比べ選手権
  - 森のレストラン
- 参加費 / 100 円 ( 保険を含む )

\* 詳しくはチラシをご覧ください。

定例活動スケジュール

集いの広場 10時集合

- 10月2(土) 第4回どんぐり祭り
- 11月2(土) 竹林管理と竹炭焼(講師)
- 12月2(土) 新年の装いと梅の剪定
- 平成 15 年
- 1月(土) ツリーハガーズ式木登術  
元来、高所の枝打ちを目的に生まれた木登りのワザを、ツリーハガーズ・インターナショナルの方から教わります。ロープを巧みに操って登るため、腕力に自身のない方でもできるそうです。いつもと違った、ちょっと高い視点から、森の様を眺めてみませんか。
- 2月(土) 赤松林の再生と落ち葉かき
- 3月(土) 第 回 萌え木祭り

**● 会員募集中! ●**

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は  
オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。

公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。  
植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。  
柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。  
その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。  
振り込み先(郵便局)  
オアシスの森くらぶ 00860-7-33725  
連絡は事務局までどうぞ

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>参加申込みやお問合せなど</p> <p>事務局<br/>伊藤百寿人 052-895-8523<br/>中島己治男 052-803-9534</p> | <p>ニュースレターをメールで配信</p> <p>申込先<br/>e-mail: isoiso@eva.hi-ho.ne.jp<br/>e-mail: masashi_k@muf.biglobe.ne.jp</p> | <p>ホームページをご覧ください</p> <p>e-mail: yoji-toyo@amy.hi-ho.ne.jp<br/>URL address :<br/>http://www. amy. hi-ho. ne. jp/ yoji- toyo/ mori- club/ oac- index. html</p> |
|--|---|--|

